

平成 1 8 年度近畿地域 ESD 促進セミナー  
企画・運営等業務報告書

2007 年 3 月 30 日

きんき環境館（近畿環境パートナーシップオフィス）

## <目 次>

<b>1 業務の概要</b>	
(1) 業務名	2
(2) 目的	2
(3) 業務実施期間	2
<b>2 業務内容</b>	
(1) セミナープログラムの作成	2
(2) セミナーの講師等の選定・調整	3
(3) セミナー資料の作成	3
(4) セミナーの周知	4
(5) セミナー当日の運営等に係る業務	4
<b>3 考察</b>	
(1) アンケート結果	8
(2) まとめ	9
<b>資料編</b>	
(1) アンケート結果	11
(2) 広報チラシ	16

## 1 業務の概要

### (1) 業務名

平成 18 年度近畿地域 ESD 促進セミナー企画・運営等業務

### (2) 目的

「平成 18 年度近畿地域 ESD 促進セミナー企画・運営等業務仕様書（以下、「仕様書」という）」に基づき、近畿地域における、持続可能なための開発のための教育（以下、「ESD」という）の意義等について、参加者の共通認識の確立、ESD の促進を図るために「近畿ブロック ESD セミナー～地域の ESD をつなげ、充実させるために（以下、「セミナー」という）」を開催しました。

この目標の達成のため、近畿地域内で ESD を現在推進している、もしくは今後推進を希望する主体等を対象として、ESD に関する講義、ワークショップを開催しました。

### (3) 業務実施期間

近畿地方環境事務所との契約締結日から平成 19 年 3 月 30 日まで業務を実施しました。セミナーは、期間中の 1 月 26 日に開催しました。

## 2 業務内容

業務の目的に沿って、下記の事業を実施しました。

### (1) セミナープログラムの作成

近畿地方環境事務所や講師、ESD 関西などと連携をとりながらプログラムを作成し、準備を進めました。仕様書に基づき、プログラムでは以下の 3 点を盛り込んだ内容としました。

- ・講師による ESD に関する講義（40 分程度）
- ・参加者によるワークショップ（2 時間程度）
- ・講師による講評、その他（20 分程度）

#### 概要

タイトル：近畿ブロック ESD セミナー

日 時：2007 年 1 月 26 日（金）13：30～17：00

会 場：近畿地方環境事務所会議室

（大阪市中央区大手前 1 - 7 - 31 OMM ビル 8 階）

主な対象：地域で ESD に関する取り組みをしている、もしくは関心があり、これから取組んでみたいと考えている方

定 員：40 名（要申込・先着順）

参 加 料：無料

主 催：近畿地方環境事務所、きんき環境館

## 当日プログラム

13:30 開会

あいさつ（近畿地方環境事務所）

趣旨説明（きんき環境館）

13:40～講座「ESDの意義と地域での活動の推進について」

講師：前川実 氏

（ESD-J 理事、（財）アジア・太平洋人権情報センター上席研究員）

14:10～質疑応答

14:20～ワークショップ「ESDシナリオづくりワークショップ」

進行：嵯峨創平 氏

（ESD-Jシナリオプロジェクト・コーディネーター、（特活）環境文化のための対話研究所代表）

休憩は適宜実施

16:55～事務連絡

17:00 終了

講師の前川氏、嵯峨氏との調整の結果、講座を30分程度、ワークショップを150分程度としました。前川氏は、ワークショップの際、嵯峨氏のサポートを行いました。講師による講評は、ワークショップのまとめに代えました。

## （2）セミナーの講師等の選定・調整

（1）にもあるとおり、仕様書に従って以下の2名を選定しました。選定に際しては、（特活）ESD-JおよびESD関西の協力により調整し、講演・ワークショップそれぞれに適した講師に依頼しました。また、講師との間で、セミナーのプログラムについて調整を行い、（1）の内容で決定しました。

### 講演

前川実 氏

（ESD-J 理事、（財）アジア・太平洋人権情報センター上席研究員）

### ワークショップ

嵯峨創平 氏

（ESD-Jシナリオプロジェクト・コーディネーター、（特活）環境文化のための対話研究所代表）

## （3）セミナー資料の作成

（1）で作成したプログラムに基づき、講師と調整をしながらセミナー資料を作成しました。一部資料は講師等から収集し、配布しました。作成した当日資料は以下のとおりです。

### セミナー使用資料

- ・プログラム進行案内
- ・アンケート用紙

- ・前川氏講演資料
- ・嵯峨氏ワークショップ資料
- ・ESD ができる！
- ・ESD レポート vol.10
- ・ESD レポート vol.9
- ・「国連持続可能のための教育の10年」ガイドライン
- ・環境省平成19年度 ESD 予算（抜粋）

#### **関連資料**

- ・近畿地域 ESD フォーラムチラシ
- ・ONE WORLD FESTIVAL 案内チラシ
- ・ESD-J 案内チラシ
- ・ヒューライツ大阪スタディーツアーチラシ
- ・国際人権広場 No.70
- ・きんき環境館メールマガジンチラシ
- ・きんき環境館環境力データベースチラシ
- ・きんき環境館パンフレット

以上 17 点

#### **(4) セミナーの周知**

仕様書に従い、以下のとおり、広報活動を行いました。

##### **広報チラシの発送**

セミナーの広報チラシを作成し、主に近畿2府4県の過去の ESD 関連行事への参加者や、NGO/NPO や企業を対象に 101 通発送しました。

##### **メールマガジンでの広報**

第25号（12月後半号）、第26号（1月前半号）、第27号（1月後半号）に掲載しました。

##### **環境部署行政間ネットでの広報**

近畿地方環境事務所と連携し、近畿2府4県の環境部署に案内を送信しました。

##### **その他広報**

ESD-J や ESD 関西のネットワークでの広報、拠点施設・ネットワーク団体等へメールでの広報等を行いました。

#### **(5) セミナー当日の運営等に係る業務**

セミナー当日は、午前より、近畿地方環境事務所と協力して会場設営を行い、受付時間より参加者の受付・誘導を行いました。講師とは進行確認として、事前打合せを行いました。セミナーが開会してからは、セミナーの進行、記録、講師のサポート等、円滑なセミナーの運営を目指して各業務を行いました。セミナー終了後は、講師への謝礼および旅費の支払い、アンケートの回収、会場の撤収などを行いました。

当日のセミナーの内容は以下のとおりです。

## 参加人数

参加者は 24 名でした。

## 講座「ESD の意義と地域での活動の推進について」

前川実 氏

(ESD-J 理事、(財)アジア・太平洋人権情報センター 上席研究員)

ESD の国際的な取組みの経過と現状を踏まえ、ESD の意義と地域で ESD を推進する重要性をお話いただきました。

### ア) ESD10 年の 3 年目 - その現状

2005 年 1 月から始まった「国連持続可能な開発のための教育の 10 年」について、その基本的なビジョンおよび各主体（国連、アジア・太平洋地域の政府、日本政府、日本の NGO/NPO や行政）の取組みを紹介しました。

### イ) ESD の意義

国際的に ESD を推進していくにあたり、国連で国際実施計画をつくりましたが、そこで「持続可能な開発（以下、「SD」という）」が対象とする領域の視点が重要視されました。それによると、社会・環境・経済の各領域があり、それに加えて基礎的要素としての文化を加えた領域が重要といえます。また、計画の重要な 15 の視点として、人としての権利、平和と安全、男女間の平等、文化の多様性と異文化理解、健康、HIV/AIDS、ガバナンス、自然資源、気候変動、地理的に不便な地域の変化、持続性のある都市化、災害防止と復旧、貧困の軽減、企業責任・説明、市場経済、があります。

また、1987 年のブルントラント報告が公表した報告書「Our Common Future」の中心的概念に SD があり、これが ESD の出発点となる考え方といえます。

### ウ) 地域で ESD のネットワークを広めるために

自然のつながりと地球社会のつながりに気づき、未来のつながりを協働で築くための対話とネットワークづくりが重要で、その取組み自体が ESD といえます。例えば、生態的に持続可能な地球環境を実現し、社会の不平等、不公正をなくす取組みを進めていくことが必要です。また、急激に変化しているアジアに ESD を広めることで、SD かつ持続可能な社会が実現すると考えられます。

## ワークショップ

嵯峨創平 氏

(ESD-J シナリオプロジェクト・コーディネーター、(特活)環境文化のための対話研究所代表)

さまざまな活動から共通エッセンスを探ることで ESD の本質に迫り、連携のあり方を見出す「ESD シナリオづくりプロジェクト」の体験ワークショップ

プを行いました。参加者は5組に分かれてワークショップに参加しました。

#### ア)「ESD シナリオ」ってなんだ？

ワークショップの趣旨説明と、本日の目標提示を行いました。

まず、ESDにつながる大小のシナリオについて解説しました。大きなシナリオとは、さまざまな分野の方々が共有できる価値観や方法論、課題を乗り越えるためのカギを探り出し、ESDへの大きな流れ・ビジョンを描くことです。一方、小さなシナリオとは、大きなシナリオの方向性に沿って、今の具体的な活動をどう展開していくか、という取組み例を指します。ワークショップでは、これらシナリオを、参加型かつ共同で作りあげて体験しました。

ワークショップの目標は、お互いの背景や10年後のESDの目標を共有すること(土台づくり)としました。

#### イ) アイスブレイク

アイスブレイキングを行い、その過程で参加者を5組にグルーピングしました。

#### ウ) フリップチャートを使った全員参加型トークセッション

参加者に配布した用紙2枚を、それぞれ4折にし、できた枠に進行役が問いかける8つの質問を次々記入し、その回答をもとに、グループ内でトークセッションを行いました。8つの質問内容は以下のとおりです。

1. 私が今日このセミナーに参加した理由は？
2. 私が(ESDやSDにつながる)社会問題を意識した原体験は？
3. 私が一番関心のある(実践している)のは 教育です(時期も)
4. 私が 教育で伝えたいメッセージ
5. 私が考える 教育の課題
6. 私がESDに出会ったのはこんな場面です(時期も)
7. 私がESDに出会って感じた期待、そして疑問
8. 私が願うESDの10年(2014年まで)で達成したいこと

(以上、嵯峨氏作成)

#### エ) グループごとのトークセッション内容の共有

各グループごとに、話し合った内容を各グループに発表して全体で共有しました。特にウ)の質問項目7および8について発表しました。これを受け、嵯峨氏からコメントがありました。

#### オ) まとめ

嵯峨氏から、「O-A-O理論」を意識してワークショップを行うことについて補足がありました。「O-A-O理論」とは、「Orientational」(目的や課題を共有すること)、「Atristic」(方法論や情報を共有すること)、「Organizational」(組織力やチームワークを高めること)の3要素を組んでワークショップをする考え方です。

また、前川氏、嵯峨氏より、セミナーのまとめのコメントがありました。

会場の様子 1 (開会、講演)



講演講師・前川氏



ワークショップ講師・嵯峨氏



会場の様子 2 (ワークショップ)



会場の様子 3 (ワークショップ)



ワークショップの設問



### 3 考察

#### (1) アンケート結果

##### アンケート回収率

24人中23人(95.8%)と高い回答率を得ました。

##### 年齢

50歳代が約30%と最も多く、次に20歳代が約25%で続きました。60歳までの参加者が約85%を占めました。

##### 職業

男性の割合が多くなりましたが、女性も9名(約40%)の参加がありました。

##### セミナーの認知

ホームページやメールマガジン、その他案内メールでの参加が87%と大半を占めました。一方、電子媒体と比較すると数は少ないものの、郵送を含むチラシによる参加がまったくない結果となり、メールでの効果の大きさが明らかになりました。

##### セミナーの内容

###### ア) 講演(前川氏)

「役に立った」、「まずまず役に立った」を合わせて73.9%の方が役に立ったという認識でした。自由記述の内容等から、ESDの概論を知りたい参加者に好評だったといえます。

###### イ) ワークショップ(嵯峨氏)

「役に立った」、「まずまず役に立った」で95.6%を占め、内容に対する参加者の満足度が高くなりました。自由記述の内容等から、多様な立場にある参加者相互が意見交換できたことが要因として考えられます。

##### セミナーで学んだこと

ワークショップで参加者同士が意見交換をして、多様な視点を得たこと、連携の必要性などに関する記載が多くありました。

##### 自由記述

急遽、ワークショップ中の設問8「私が願うESDの10年(2014年まで)で達成したいこと」を参加者の意見を含むまとめに代えて記載する進行としたため、それに関する内容とそれ以外のものに分けられました。

設問に関する記述では、各参加者の取組みも交えたESDの展開に関する意見が多くなりました。

それ以外の記述に関しては、開催方法などについての意見がありました。

## (2) まとめ

3月7日に開催された近畿地域 ESD フォーラムでは、広く一般への普及を目指しましたが、本業務で開催したセミナーは、地域で活動を行っている方を主な対象として実施しました。これにより、単なる広い普及啓発だけでなく、担い手にも働きかけるきっかけづくりとすることができました。

また、今回のセミナーでは、これまでの環境分野への働きかけだけでなく、ESD が対象とする諸分野への周知も行いました。これらの分野で活動をされている方の参加もあり、講座やワークショップを通して、さまざまな分野の方のもっている価値観を共有ができました。

今後は継続して近畿地域の各地で ESD の基本的考え方、取組みに向けてのノウハウを地域で活動する核となる団体および市民に普及しつつ、地域のステークホルダーが意見交換をする場を持ち、活動へとつなげていく取組みも考えられます。この際、(特活)持続可能な開発のための教育の10年推進会議(ESD-J)や地域の核となる団体などと連携して取組みを進めることで、より効果的な成果が期待できます。

## 資料編

## 1 アンケート集計結果

アンケート回収率 = 23 / 24 95.8%

1. あなたの年齢は次のどれにあてはまりますか？**あてはまるもの 1 つに** をつけてください。

項目	人数 (%)	割合 (%)
20 歳未満	0	0.0
20 ~ 29 歳	6	26.1
30 ~ 39 歳	3	13.0
40 ~ 49 歳	4	17.4
50 ~ 59 歳	7	30.4
60 ~ 69 歳	1	4.3
70 歳以上	1	4.3
無回答	1	4.3
合計	23	100.0

2. あなたの性別を選んで をつけてください。

項目	人数 (%)	割合 (%)
男性	14	60.9
女性	9	39.1
合計	23	100.0

3. あなたのご職業（所属）について、**最もよくあてはまるもの 1 つに** をつけてください。

項目	人数 (%)	割合 (%)
公務員	5	21.7
企業関係	5	21.7
自営業	1	4.3
学校職員	1	4.3
団体職員（NGO/NPO 含む）	9	39.1
学生	0	0.0
フリーター・アルバイト	0	0.0
無職	2	8.7
その他（ ）	0	0.0
無回答	0	0.0
合計	23	100.0

4. 今回のセミナーをどこでお知りになりましたか？あてはまるものにつけてください。（複数回答可）

項目	人数（％）	割合（％）
チラシ（郵送による案内も含む）	0	0.0
知人などからの紹介	3	13.0
ホームページやメールマガジン、案内メール	20	87.0
その他	0	0.0
合計	23	100.0

5. 今回のセミナーはいかがでしたか？それぞれ最もよくあてはまるもの1つにつけてください。

ア) セミナー（前川さん）

項目	人数（％）	割合（％）
役に立った	10	43.5
まずまず役に立った	7	41.2
どちらともいえない	2	8.7
あまり役に立たなかった	0	0.0
役に立たなかった	0	0.0
無回答	4	17.4
合計	23	100.0

理由（5）

- ・概要の紹介だった。
- ・ESDの再確認としては良かったが、現状について少し不足か？
- ・ESDの内容の理解。
- ・国連の動きがよくわかった。
- ・ESDが自分が思っていたよりも幅の広い概念であることを知ることができたので。

イ) ワークショップ（嵯峨さん）

項目	人数（％）	割合（％）
役に立った	17	73.9
まずまず役に立った	5	21.7
どちらともいえない	0	0.0
あまり役に立たなかった	0	0.0
役に立たなかった	0	0.0
無回答	1	4.3
合計	23	100.0

理由(6)

- ・ 順を追って質問がでてきたのがやりやすかったです。
- ・ いろいろな考え方がありました。それが良かった。
- ・ ワークショップ手法と意見発表。
- ・ みんなそれぞれの意見を出し合ってお互い気づくことができたから。
- ・ いろいろな立場の活動をきくことができたから。
- ・ 多様なバックグラウンドを持つ方々の話を聞くことができたため。

6. 今回のセミナーで学んだこと、役に立った内容があれば、お書きください。

(21件回答)

- ・ 違う立場の人と話す機会が持てたこと。
- ・ NPO や ESD の活動に初めて接して、刺激を受けることができた。
- ・ ESD って誰でもできるんだ、ということがわかって良かった。
- ・ ESD と旧来の環境教育との違いがよくわかっていなかったが、今まで「それも一部」程度に感じていた他のジャンル(福祉、人権、平和)が、同じ強さの対等な位置で成立する考えなのだと思えた。かつ、これらが今までのように独立・並立するのではなく、有機的につながり、融合していくという目的を含有するというのは新鮮だった。
- ・ 嵯峨さんのキレのよいワークショップ信仰にふれて、よかったです。
- ・ ワークショップは楽しかった。
- ・ ESD の事が(よく?)理解出来た。
- ・ ESD とは、本当に色々な分野の組み合わせだと思いました。8つの質問、テーマもよかつたし、流れもよかつたので、ぜひ講座でマネさせていただきたいと思いました。
- ・ 他の人の活動や悩みを聞いた。
- ・ ESD の意義や国連・日本の活動状況を始めて聞き、納得しました。
- ・ ESD の概念整理(前半)、その概念の具体化、内容の充実(後半)
- ・ 多様なつながり
- ・ ミレニアム開発目標、8つのゴール、18のターゲット
- ・ ワークショップのやり方
- ・ 熱心に教育に取り組んでいる方が多いことに感心すると共に、サステナブルな社会をつくるにはみんながつながってパイプをつくるのが大切だと思いました。
- ・ 出会いの場となったことは大きいですね。
- ・ ワークショップ楽しかった。
- ・ O-A-O 理論、いろいろな方々に出会えました。ありがとうございます。
- ・ 自分がバクゼンと考えていると考えることを、口に出していたり、書いたりすることにより、ハッキリした。
- ・ すごく良かったです。教育についてこんなに沢山の人が意識を持ってるのがすごいと思った。1つ1つの話し合いが短時間でしたが、良かったです。集中できた。

- ・多様なバックグラウンドを持つ人々の連携を促進するための出会いの場の重要性。

7. 今回のセミナーについて、ご意見・ご感想等ありましたら、ご自由にお書きください。

ワークショッププログラム「10年後に達成したいこと」記述を含む  
(22件回答)

ワークショッププログラム「10年後に達成したいこと」に関連する内容

- ・ESDへの興味が深まった。10年後、何も代わってなくても仕方ない、地球はマイナスへ進んでいるかもしれない。だけどESDという言葉をみんなが知っている社会になって欲しい。
- ・自然体験とか、エコツアーとか、ロハスとか、(反戦とか平等とか)、そういったことが「特別」ではなく、万人の趣味の1つとしてオーソライズされること。
- ・現在は特別視され、「宗教的」、「まじめ、カタブツ」、「口にする、やってみるのが恥ずかしい」という社会的抵抗感がある。これが「本を読む」、「TVドラマの内容を語る」と同じくらい自然で日常になってほしい。
- ・意見が見え、声が届く向こう3軒両隣でここちよい人とのつながりが実感できるまちに、子どもたちの笑顔がはじけること。
- ・2014年...ESDの成果を世界の人と(結び?)中国を(想い?)とするアジアの人とか(常に?)やって来る(経済も潤う)。
- ・ESDとは何ぞや、というのが具体的にわかった気がします。他分野にまたがっているので、可能性も大きいと感じました。ありがとうございます。10年後は他とのつながりを理解して、他に対して思いやれる社会。
- ・ESDの10年後の社会をたのしみにできるようにとりくみをしたいです。
- ・「みんなで同じ山を登って行こう」~山の中腹には霧がかかって、自分の前しか見えていない。山の上にはSDがある。みんなで一緒に山を登った方がきつと楽になる。みんなで同じ山を登って行こう~。
- ・環境教育による人・事業者・行政・社会の意識改革により、平和で安全な日本、世界の実現を願う。
- ・-10年度の社会 人が自然界へ精神的、社会的に回帰していく。(産業?)等のない社会。
- ・行政のたてわりがなくなる。みんなが豊か。
- ・10年間に達成したいこと、今の子どもたちが私たち大人の社会を変え始めること。
- ・日本の川がきれいになる、自殺者が1,000人くらいになる。日本の農業自給率がUPする。大量生産、大量消費がなくなる。未来を安心してまかせられる人材がたくさん出る。
- ・Q8「気づき」、「学び」、「行動」が環境学習の中だけに留まらず、日本の教育スタイルが主体的な学びである「気づき」、「学び」、「行動」になれば、「つな

がり」が見える社会になるのではないだろうか。

- ・新しい社会経済のあり方、自然に次世代の担い手が育成されていく社会。
- ・(ESDの10年で達成したい世界) 平和な、平等(国家間、男女間、世代間)、節度ある暮らし。子孫が安心して暮らせる世界、自然と調和した世界。自然に対して謙虚な人間が多くなってほしい。

その他自由記述

- ・次回のセミナーにも期待したい。
- ・行政間の連携。
- ・野山や田畑などホットでできるような日本原風景が大切なことを伝え、守るような活動をしていきたい。また、価値観の大転換を図るような取り組みを続けていきたい。
- ・市民の倫理的実践の生活の実践、企業がCSRを行っているのと同じく、個人も「P(Personal)SR」を、行政も「G(Government)SR」を。
- ・参加者の名簿(氏名、所属程度)があれば、ネットワークづくりに役立つと思う。また、名札もあれば良い。
- ・環境の課題を解決するワークショップやKJ法等、により地域社会でESD思想を普及して環境教育を実行して行きたいもの。
- ・満足です。
- ・すごく良かったので、次回も期待しています。
- ・環境教育を行っている学生団体の人にもっと来てほしかった。達成目標「異なる関心、異なる背景を持つ人たちの相互理解」。

# 近畿ブロック ESD セミナー

～地域の ESD をつなげ、充実させるために～

日本政府が提案して実現した「国連持続可能な開発のための教育の 10 年」が 2005 年からスタートし、今年 3 月に「わが国における国連持続可能な開発のための教育の 10 年実施計画」が策定されました。

そこで今回は、環境省の「国連持続可能な開発のための教育の 10 年」促進事業の一環として、「近畿ブロック ESD セミナー」を開催します。

このセミナーは、地域に根ざした ESD を行う団体やその関係者が、活動に際して、ESD のそもそもの意義を共有し、地域での ESD に関する取り組みをさらに促進していくための方法について考えます。

## ESD とは

「持続可能な開発のための教育」のことで、世代間・地域間の公平、男女間の平等、社会的寛容、貧困削減、環境や天然資源の保全、公正・平和への社会などを調和してつくる取り組みを通して、民主的で誰もが参加できる社会制度と、社会や環境への影響を考慮した経済制度を保障し、個々の文化の独自性尊重などを通じて、公正で豊かな未来を創る営みを目指す行動を促す教育を指します。

日 時：平成 19 年 1 月 26 日（金）13：30～17：00

場 所：環境省 近畿地方環境事務所会議室

大阪府中央区大手前 1-7-31 OMM ビル 8F

（大阪府営地下鉄谷町線・京阪電鉄「天満橋」下車すぐ）

主な対象：地域で ESD に関する取り組みをしている、もしくは関心があり、これから取り組んでみたいと考えている方

定 員：40 名（要申込、先着順）

参加費：無料

主 催：近畿地方環境事務所、きんき環境館

運営協力：（特活）持続可能な開発のための教育の 10 年推進会議（ESD-J）

持続可能な開発のための教育の 10 年関西ネットワーク（ESD-K）

裏面にプログラム概要と申し込みに関する記載があります。

主なプログラム：

## 1. 講座「ESD の意義と地域での活動の推進について」

【講師】前川実 さん

（ESD-J 理事、（財）アジア・太平洋人権情報センター上席研究員）

ESD を地域で効果的に取り組んでいくにあたり、おさえておきたい基本的な意義や考え方、事例等を紹介します。

## 2. ワークショップ「ESD シナリオづくりワークショップ」

【進行】嵯峨創平 さん

(ESD-J シナリオプロジェクト・コーディネーター、  
(特活) 環境文化のための対話研究所代表)

ESDのエッセンスを取り入れ、活動の充実を図るヒントとして、ESDシナリオづくりの導入部分を体験します。参加者同士がディスカッションをしながら、お互いの活動の目的・内容や価値観をわかりやすく共有します。

申込方法：所属、氏名、連絡先（住所、TEL、FAX、E-mail）と、質問事項等があればご記入の上、E-mailまたはFAXで申し込みください。  
**受付確認の連絡は行いませんので、定員をこえて受付できない方  
にのみ、その旨お知らせいたします。**

申込・問合せ：きんき環境館（担当：谷川）

大阪市中央区大手前 1-7-31 OMMビル 5F

TEL：06-6940-2001 FAX：06-6940-2022

E-mail：office@kankyokan.jp

URL：http://www.kankyokan.jp/

.....

### < 近畿ブロック ESD セミナー 申込用紙 (FAX 用) >

FAX：06 - 6940 - 2022

1. 氏名			
2. 所属			
3. 住所	〒		
4. TEL		FAX	
5. E-mail			
6. 質問事項 (活動での課題、セミナーで聞きたいことなど)			

お申し込みいただいた個人情報は、本行事の申し込み管理および今後のイベント等の情報提供に限り使用し、きんき環境館で適正に管理します。